

[た よ り]

岡山県支部だより

草野 功

1 支部の概況

岡山県は、人口約 195 万人の県。瀬戸大橋の開通で四国が近くなり、また山陽道・岡山道の高速道路網の整備により、中国地方では地理的には交通の要として便利な環境にある。行政的には 9 保健所と二次医療圏域は県南東部、県南西部、津山・勝英、真庭、阿新圏域の五つに分かれている。透析災害時の対応は、透析医部会独自に透析施設や交通網など地理的環境を考慮して、岡山東部、岡山西部、岡山県北部の三つの圏域に設定している。

岡山県透析医会は、平成 9 年 6 月 21 日、岡山県医師会の承認を受け、岡山県医師会透析医部会設立総会が行われた。今年、設立 10 周年にあたり記念すべき年である。

日本透析医会には岡山県透析医会とし、岡山県支部として活動をしている。したがって、会員は原則、岡山県医師会会員に限定している。県医師会の部会になっている透析医会はほかの都道府県にはほとんど無いようである。このことは、対外的には公的団体である医師会として折衝活動が可能となり、誠に有益である。岡山県医師会透析医部会には、県下 61 医療機関、64 施設ある。このうち岡山市市民病院、岡山日赤病院（災害時に対応）、国立病院機構南岡山病院（結核患者病棟あり）の 3 医療機関は、慢性透析を行っていない。また、1 医療機関のみ会員になっていないが個人会員数は 86 名である。

透析医部会では災害時に備え、毎年、各施設の患者

数調査をはじめ関連情報を一元的にデータベース化しており、平時でも患者の移動に参考となる情報を提供できるシステムを構築している。これを利用して毎年、岡山県医薬安全課には県下の透析患者数を報告している。ちなみに、平成 18 年 4 月調査では血液透析患者 3,789 人、腹膜透析患者 294 名の合計 4,083 人であった。

また、県関係部課、岡山県腎臓病患者連絡協議会と透析医部会幹部との懇談会や、臨床工学士会、栄養士会など関係団体との連携が進んでいる。特に行政に対しては信頼性が高く、部会活動は高く評価されている。役員は以下のように、地域と専門性を考慮して選出している。

顧問：榎野博史（岡山大学教授） 柏原直樹（川崎医大教授）

会長：草野 功（福島内科医院）

副会長：西崎哲一（西崎内科医院） 平松 信（岡山済生会病院）

幹事：北田信吾（津山中央病院） 笛木久雄（笛木内科医院） 木本克彦（木本内科医院） 宮崎雅史（幸町記念病院） 有本克彦（重井医学研究所附属病院） 味埜泰明（落合病院） 片山 弘（備前市立病院） 福島正樹（倉敷中央病院） 佐々木環（川崎医科大学）

監事：小林完治（小林内科診療所） 菅 嘉彦（菅病院）

岡山県医師会担当理事：糸島達也 田中茂人 川崎

祐徳

事務局：(医) 創和会重井医学研究所附属病院

岡山市山田 2117

災害対策本部：(医) 社団西崎内科医院

倉敷市新倉敷駅前 3 丁目 119-1

2 災害対策

岡山県透析医会の設立機運は、日本透析医会設立時からあったが、平成 7 年 1 月の阪神大災害を契機に、透析医療災害対策の重要性に鑑み、県医師会の部会として設立した。

したがって、部会活動の大きな柱の一つが災害対策である。災害対策委員長の笛木久雄幹事は、岡山県の透析災害対策の中心的存在であり、中国地区においては他県の災害対策システムの構築をリードし、日本透析医会災害時透析医療対策部会の部会員としても活躍している。

災害時には、透析施設間の連携は重要であるが、行政・救急病院との関係、特に日赤の初動体制は重要で、岡山日赤病院は慢性透析を行っていないが透析災害ネットワークシステムと常に連携をしている。また、医薬品や透析機材の供給体制も必要であるから、平成 17 年 1 月岡山県医薬品卸業協会との打ち合わせ会、3 月には透析関連企業との連絡協議会を持ち、これまで毎年岡山県内での透析災害訓練を行ってきた。

以下に平成 17 年度の活動を中心に略記する。

4 月 災害対策関連情報施設アンケート調査とデータ更新、各施設の透析患者数は岡山県医薬安全課にも報告

6 月 11 日 岡山県医師会透析医部会総会

6 月 25 日 日本透析医会災害情報ネットワーク会議（草野・西崎・笛木出席）

8 月 30 日 透析医部会防災訓練（広島・兵庫・岡山三県合同）

9 月 9 日 日本透析医会災害時透析医療対策部会（東京・笛木部会員出席）

9 月 24 日 中国地区合同透析医療災害対策会議（広島・笛木・菅出席）

10 月 27 日 三者懇談会（透析医部会・県腎協・県行政幹部）

11 月 10 日 福井県腎不全症例検討会学術講演会

（笛木幹事の災害対策講演）

11 月 17 日 第 7 回岡山県透析施設防災責任者連絡協議会

11 月 24 日 日本職業・災害医学会ランチョンセミナー（大阪・笛木講演）

雑誌掲載 笛木久雄ら：災害時透析医療の情報共有化. 日透医誌, 20; 342, 2005.

3 平成 17 年度学術関連活動

7 月 9 日 第 76 回岡山透析懇話会

12 月 15 日 第 77 回岡山透析懇話会

岡山透析懇話会は昭和 42 年から発足し、岡山県内のみならず近県からの出席がある。幹事として出席し、透析医部会との連携をしている。

6 月 11 日 透析医部会総会・懇親会：川崎医大腎センター長の英国留学体験談

7 月 2 日 透析スタッフを含む学術講演会：「透析医療従事者の接遇マナー」（ANA ラーニングインストラクター）北井優子先生、「2 次性副甲状腺機能亢進症の治療戦略」（慶寿会春日部内科クリニック）栗原怜先生

10 月 29・30 日 第 11 回日本腹膜透析研究会（当番幹事 平松 信）：岡山市で行われ、透析医部会が強力に後援した。

岡山で行われる全国規模の研究会、学会には透析医部会が常に後援をしている。

1 月 20 日 2005 腎と栄養こんわ会：岡山県病院栄養士協議会・岡山腎不全食研究会が主催し、川崎医療福祉大学で行われ、草野、柏原、平松、佐々木、田中が透析部会から出演、協賛した。

4 平成 17 年度他団体との連携

5 月 15 日 NPO 法人岡山県腎臓病連絡協議会総会：草野会長が来賓出席し、祝辞を述べた。

10 月 27 日 三者懇談会（透析医部会・県腎協・行政）：透析医療災害対策、透析患者高齢化問題、透析医療の制約強化策と患者負担、障害者への県費削減の問題など多岐にわたる問題が話し合われた。

6 月 25 日 日本透析医会第 10 回透析保険審査に関する懇談会：草野・平松出席

その他、(財)岡山県臓器バンク理事・評議員とし

て移植医療にも協力している。

おわりに

本年度の診療報酬改定では3.16%のマイナス改定であるが、透析医療に関しては、エリスロポエチンの包括、ダイアライザーのコストダウン、障害者加算・時間外加算の低減化など大幅なものとなった。このことは、透析患者にとって、施設運営のために合理化の余波を受けるのではないかと強く危惧している。さら

に、患者負担の増加、高齢透析患者の増加は医療機関にとっても負担が大きくなってきた。特に、通院の問題、限られた入院など将来に不安が募り、患者・施設ともに苦境にさらされる状況は由々しき問題である。透析医会として今後、どのように対応していくか、皆様の叡智を結集しなければならないと考える。

紙面の都合で十分ではないが平成17年度を中心に略記し、岡山県支部だよりとする。